

# 健診結果からわかるあなたの未来 - 健康と思っている時こそ健診を受けましょう！

国立循環器病センター予防検診部長 岡村智教

ご縁があってこれから3回シリーズで健診についてのお話を書くことになりました。「健診(けんしん)」と聞くと何を思いだされますか? 「がん」検診のことではありません。血圧を測ったり、採血したりする普通の健康診断のことです。去年からメタボ健診が始まり、ウエスト(お腹まわり)も測るようになりました。

検診と健診で呼び方は一緒ですが、それぞれ意味が違います。検診は、ある病気を見つけて早く治療することを目的としています。わかりやすいのががん検診です。胃がん検診は胃がんを、肺がん検診は肺がんを見つけるのが目的です。もし病気が見つかったらどうするのか? もちろん

病院で精密検査を受けて必要があれば治療を受けます。ではもう一方の健診は何のためにしているのでしょうか? 健診は何か一つの病気を見つけるためのものではありません。健診で高血圧や糖尿病などが見つかりますが、これらは、通常、無症状ですし、すぐに命に別状があるわけではありません。しかし高血圧や糖尿病をそのまま放置しておくと、その後10~20年にわたって、異常がない人に比べて3~4

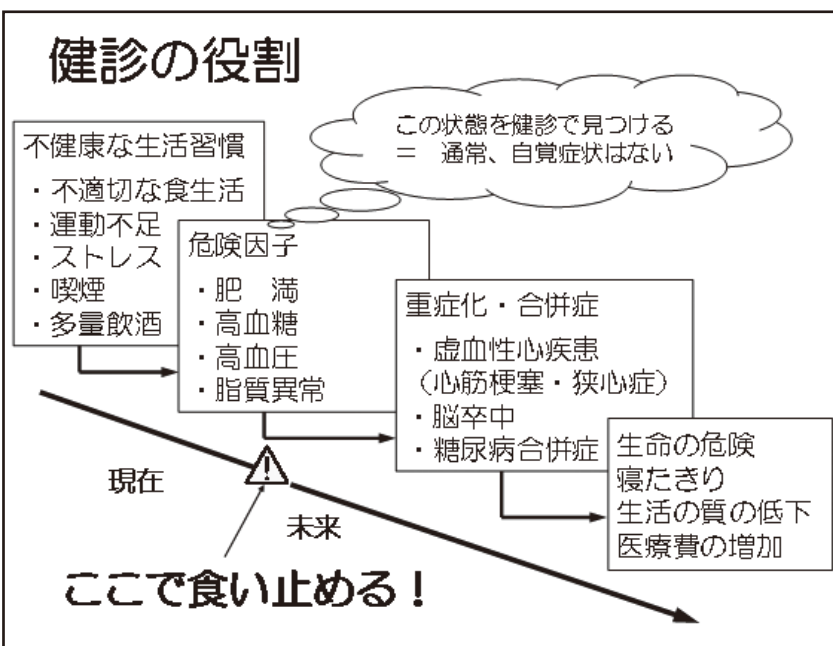
倍も脳卒中や心筋梗塞になりやすくなります。脳卒中や心筋梗塞は、もし発症すれば命の危険があり、入院で高額な医療費もかかります。また後遺症が残ると外出などができなくなって生活も不自由になります。

図は健診の役割を示しています。まず「不健康な生活習慣」→「危険因子(肥満、高血圧、高血糖、脂質異常)」→「重

症化・合併症(脳卒中など)」→「寝たきり・生命の危険等」という大きな流れがあります。この流れをどこで食い止めるかがとても大切です。健診は「危険因子」と「重症化・合併症」の間の防波堤なのです。重要な点は、「危険因子」の段階で発見して治療すれば、命の危険も生活の質の低下もないということなのです。

昨年、ある市で健診を受けない理由を尋ねたところ、意外なことに「健康だから」という回答が一番多くなりました。どうやら症状がなければ自分は健康だと思っておられる方が意外と多いようです。高血圧や糖尿病、脂質異常症などの危険因子を持っていても、特に症状はありませ

ん。だから健診を受けない限り危険因子を見つけることはできません。現在、無症状でも危険因子があると次第に体にダメージを与えていき、将来、心筋梗塞や脳卒中など入院を必要とするような病気をひきおこします。健診は、がん検診のように現在、隠れている重い病気を見つけるのではなく、将来、脳卒中や心筋梗塞などにかかりやすいかどうかを判定しているのです。そして危ない人には予防するためのやり方が



いろいろと用意されています。健診は未来の健康維持のために受けるものです。今、健康な人、何も症状がない人こそ健診を受けてください!

次回は実際にどのような人が将来、心筋梗塞などになりやすいのかについて具体的な数字を示して解説します。

(保険年金課)

## 「高額療養費特別支給金」について

### ● 「高額療養費特別支給金」の支給対象者

支給対象者は、平成20年4月から平成20年12月までの間に満75歳を迎えられた方(昭和8年4月から昭和8年12月生まれで月の初日生まれ以外)、およびこの期間に満75歳を迎えられた方の健康保険上の扶養家族であった方が制度上やむなく月の途中で他の健康保険に加入することになってしまった方で、かつ、**満75歳の誕生日(加入月)に所得区分に応じて一定額以上の医療費を負担された場合、自己負担限度額の半分の金額との差額が支給されます。**

支給対象の方へは、申請のご案内を送る予定です。

### ● 申請窓口

「高額療養費特別支給金」の申請は、それぞれの健康保険制度で申請を行い、それぞれ別々に自己負担限度額と実際に負担した額を審査して支給されることとなります。

羽曳野市国民健康保険の受付期間は平成21年9月1日から平成22年1月29日までです。保険年金課(内線1760)にお問い合わせください。

大阪府長寿医療(後期高齢者医療)の受付期間は平成21年9月1日から平成22年1月29日までです。大阪府後期高齢者医療広域連合(06-4790-2031)または保険年金課(内線1330)にお問い合わせください。